

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372001756		
法人名	医療法人 尽誠会		
事業所名	グループホーム 尽誠苑 ほのか		
所在地	豊橋市大脇町大脇ノ谷74-54		
自己評価作成日	平成26年10月27日	評価結果市町村受理日	平成27年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所(株)		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・開設記念食事会やいきいき祭りには、ご家族が多数参加下さり、交流の場になっている。 ・自然に囲まれており、窓から見える景色は四季を感じる事が出来る。 ・個々の状態に合ったケアを心がけている。 ・毎月の状態や様子を写真付きの手紙で報告しており、好評である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の盆踊りやいきいき祭りには多数の地域の人々の参加があり、法人全体として地域との交流の場を持っている。グループホームの食事会を年1回行い、家族間の交流もできている。広いホーム内は清潔で各居室も広く、それぞれに過ごしやすく工夫されている。職員と利用者間も良好な関係が構築されており、家族的な雰囲気である。利用者が毎日をいきいきと過ごせるよう外出の機会を多く持ち、また、レクリエーションも法人と共に行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念は、掲示している。理念に基づいたケアに努めている。夕方の申し送りでは、法人の思いや品質方針を職員で読み合わせている。	理念は各ユニットの入口に掲示しており、わかりやすい理念であるため、職員は共有して実践につなげたケアを行っている。利用者を尊重した、家族的な雰囲気であることを特に意識して心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で梅田川の清掃に参加している。法人のお祭りや町内のお祭りを通して交流を図っている。近隣のスーパーや近所を散歩している。	散歩やスーパーでの買物、喫茶店でのモーニングなどで、地域の人との関わりを持ったり、法人の盆踊りやいきいき祭りには、多数の地域の人々の参加がある。中学生の職場体験の受入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の地域包括センターにて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の様子や取り組みを報告している。参加者より出た意見を対策に生かしている。	活動報告や利用者の様子などを報告している。顧客満足度調査を実施した結果を家族に伝え、今後のサービス提供に役立つよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員が必要に応じて行っている。	役所より豊橋祭りの市民総おどりに参加して欲しいとの依頼があり、近くのサテライト会場に利用者と共に参加し、協力している。介護相談員が毎月訪れ、利用者と話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が設置され、法人全体で廃止に向けて取り組んでいる。夜間は、職員が一人で見守りが困難な為、ユニットの入り口を施錠している。	1. 2階のユニットの入口は施錠しているが、家族に説明して了承を得ている。身体拘束廃止委員会があり、事例などあげながら廃止に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、勉強会を法人全体で年2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新入職や中途入職オリエンテーションに講習がある。活用については、必要に応じて相談員と共に話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査や運営推進会議などからの意見を基にサービスの改善を図っている。	年1回グループホーム食事会を実施し、多くの家族の参加がある。また、顧客満足度調査を行い、結果報告を運営推進会議でも伝え、外部の人にも内部のことをわかってもらうよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りで業務やケアサービスについての意見交換、情報交換を行っている。	朝、夕のミーティングで、業務に対する意見や情報交換をして、ケアに関して統一化を図っている。年に1回個別面談を行い、管理者は職員の要望や希望を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、案内が申し送りノート内にあり全職員が見れるようにしている。希望者は研修にできる。苑内研修は、定期的であり、参加が出来ない職員も研修内容に目を通せるように報告書がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交換研修を行っている。グループホーム対抗輪投げ大会に参加し、他事業者との交流や様子を見ることが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望や要望を傾聴し、職員間で相談している。過ごしやすい環境づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に話を聞き、都合に応じて電話でも意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員のアセスメントシートを基に様子観察し、個別に対応している。状態に合わせて対応を職員間で相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や身の回りのことで、一緒に行えることは、共に行い、自己にて出来る部分は見守っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族がゆっくり過ごせるよう配慮している。状態に応じて対応を相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より希望がある時は、相手や場所を確認し対応している。馴染みの方の面会は、家族や親戚の方が多い。	昔の職場の仲間や近所に住んでいた人が継続して面会に来訪している。隣接している老健やデイサービスに知り合いの人がいて、グループホームへ遊びに来る人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	短時間でも互いにゆっくり過ごすことができるように職員が仲介に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談員が行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりから、以前の暮らしや今はどのような暮らしを望んでいるか把握に努めている。	日頃の生活の中で利用者とコミュニケーションを図る様に努めて、本人から直接要望など聞いたり、表情や仕草で察する事もある。また、家族から情報を貰い、本人の要望に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員のアセスメントシートを基に、本人やご家族からお話を伺っている。本人との日常会話より把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や行動などを見て現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が本人や家族と話し合い、職員間にて申し送りやカンファレンスにサービス内容を検討している。	3ヶ月毎にモニタリングを行い、家族へ手紙や面会時に意見を貰い、日々の記録を基にして職員間で話し合い、介護計画を作成している。状態変化が見られる場合は家族に電話をし、介護計画書の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り等で、情報の共有が図れるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なものや本人の希望時に買い物や外出を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や受診が多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、本人やご家族に相談、報告をしている。	入居時に当事業所の協力医に変更してもらっている。協力医が近隣のため職員と家族で通院の付き添いをしている。協力医から皮膚科など専門医へは紹介状を出してもらうなど連携が出来ており安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時報告し、様子を確認し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が付き添い状態や経過を報告する。介護サマリーにて情報提供を行っている。入院中は、経過や必要に応じて病院と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Dr.と相談の上、家族を交えて話し合いの場を設けている。	入居時に家族に重度化に向けた方針は説明して同意を得ている。重度化になり医療行為が必要になって来たと医師が判断した場合は、家族に説明を行い、他の希望の施設に移ることが出来るように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、避難経路や誘導方法など確認している。訓練後は、法人の委員会にて話し合いがある。	併設の同法人施設と合同で火災、地震の避難訓練を利用者も参加して行っている。防災委員会で避難訓練後に改善策も話し合っている。グループホームだけで夜間に職員だけで避難訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気分を害する事がないよう、配慮している。	利用者の部屋に入る時には必ず声をかけるなど、プライバシーに配慮したり、人格を尊重して言葉使いには気を付けている。書類面は事務所の鍵がかかる書庫に保管して、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースに合わせて関わりを持つように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に出来る限り応じられるよう努めている。買い物や食事は、その日に応じる事は難しい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	趣向に配慮し、対応している。自己にて行える部分は、見守り必要な部分を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや嚥下の状態に応じて食事を提供している。食事作りの日は、各々の力量に応じて分担して行っている。	食事は隣接する法人からの配食となっている。管理栄養士による献立は四季を感じる内容になっている。食事レクリエーションとして利用者の誕生日にはその人の好きな献立にしたり、外食にしたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録に残し変化に気付き、必要に応じて対応している。疾病に応じてDr.と相談して食事内容を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じてケアや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンや状態に応じて、トイレでの排泄を可能な範囲で支援している。	職員は利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握しており、その人に合った時間でトイレに誘導している。体調不良時には特に気を付けて、利用者の様子を見ながらトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し、水分量や食事量、運動の有無、活動内容を確認している。Dr.に状態を報告し、対応を相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は限られてしまうが、入浴の希望は応じている。個々の習慣に応じて入浴して頂いている。	入浴は概ね1日置きとなっている。入浴拒否が見られる場合は、職員の上手な声かけで入浴しており清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団や枕は、習慣に応じ好みの物を使用している。季節や状態に応じて布団類を調整する。週1回シーツ交換をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は、薬の説明書を各々のカルテ内に閉じ、常に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の習慣や性格を尊重し、家事や日々の活動への参加を声かけている。一人で過ごす時間も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣の散歩は、可能な限り希望に応じている。買い物や受診は、その日に希望に応じる事が難しい。特別の場所への外出は、本人の希望に添えるよう、家族の協力を得ることがある。	ユニットごとで外出の頻度の違いはあるが、近隣へ散歩や買い物など1日2～3回は外に出る機会を作っている。外出レクリエーションとして買い物やドライブを兼ねて外食や水族館見学など少し遠方に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、基本的にお断りしている。個々に管理が出来る方で、希望のある方は、自己管理にて所持されている。買い物の希望は、立替で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は、居室に電話がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるよう壁面には、行事の写真や季節に応じた飾りつけを行っている。入居者が生けた花をリビングや玄関に飾っている。	リビングには利用者と職員で作った、柿の木や紅葉の壁かざりがあり、季節を感じることが出来る。ホームは掃除が行き届き清潔で、窓からさす光はカーテンを利用して遮断し、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関、廊下にソファを配置し、交流や休息が出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の状態に合わせて家具を配置している。生活習慣や好みに応じて必要なものを置いている。	居室はぬいぐるみ、家族の写真、本人がホームで作った作品などが置いてあり、利用者一人ひとり個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じて居室のトイレなど案内表示や排便の有無の報告を掲示している。洗濯干しや洗濯たみ等は、場所や個々の力量を考慮し、安全に行えるよう配慮している。		